

- 大野市地域公共交通網形成計画等（H21～※現在3期目）を策定し、市営も含め利便性の高い交通環境の構築などに取り組んできた。
- 本市の人口動態は生産・年少人口の減少に加え、**老年人口も減少していく段階**に突入している。
- 新たな交通事情を踏まえ、大野市地域公共交通計画（R6～10）の策定と公共交通ネットワークの再構築を進め、**コンパクト・プラス・ネットワークの実現**を図っていく。
- 全国の多くの自治体が**本市同様の状況に直面**していると思料する。

【参考】過疎市町村数：885 ※全市町村数の約51%（R4. 4. 1時点） [出典]一般社団法人全国過疎地域連盟ホームページ

大野市の公共交通を取り巻く現状

1. 利用者が減少

人口減少や少子化、運転免許保有者の増加などにより、市内公共交通の利用者は10年間で4割減少

2. 移動ニーズと交通サービスのミスマッチが発生

時間帯や便によって低い運行率の路線が存在、収支率の悪化と公的負担が増加
公共交通利用者一人当たりの運行経費は10年間で2倍、運行経費は25%増加

3. 公共交通がわかりにくい

運転免許保有者の増加に伴い公共交通に触れる機会が減少
公共交通に関する情報が十分に伝わっていない可能性

4. さまざまな移動を支える担い手の不足

バスやタクシーの運転手が不足、労働環境の改善や働き方改革が課題に

5. 北陸新幹線県内延伸、中部縦貫自動車道県内全線開通の好機

北陸新幹線開業に伴う観光客増加への期待
中部縦貫自動車道九頭竜IC開通により、和泉地区との往来がより便利に
コロナ禍による利用者消失により、夜間や早朝にタクシーが運行していない状況

取組内容（検討中含む）



乗合タクシーの運行



JR越美北線の利用促進



公共交通ネットワークの再構築



共助型移動支援の実証実験



広域的なMaaSの推進



バスロケーションシステムや貨客混載の導入

etc

課題先進地である過疎地域に焦点を当てた公共交通DXに期待する